

3.31 家族会が怒りの抗議行動にたつ

日刊 動労千葉

87. 4. 11

No. 2524

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六・（公衆）〇四七二二（七二〇七）

28名の解雇、12名の清算事業団

送りを、ただちに撤回せよ！

三月三十一日、家族会は差別・選別、レッドパージ攻撃に対し、怒りに燃えた抗議行動に決起した。

分割・民営化絶対反対を 貫いた動労千葉

分割・民営化の狙いは、国鉄労働運動を解体し、戦争に協力する労働組合につくり変えるとともに、自民党、財界が土地売却をはじめ、国鉄の利権を食いつくそうとするものである。

反動中曾根内閣、国鉄当局のすさまじい攻撃のまえに、動労革マルが真っ先に白旗をかかけ、鉄労と同盟を結んで労使共同宣言を締結し、当局の先兵となつて動労千葉や国労の首切りをわめきちらす反労働者集団としてたちあらわれた。

こうした厳しい状況の下で、動労千葉は当局の奴隷となることを断固拒否し、二波のスト、七波の順法闘争をはじめ、労働運動の原則を守り、唯一闘いぬいた。

一八名の解雇と十二名の 清算事業団送りを許さない

これに対し、当局は報復弾圧を加え、強制配転や処分の乱発、賃金カットや昇給差別等々、不当きわまる攻撃を加えてきた。

とりわけ、二波のストに対し、解雇二八名はもとより、大量の処分を行うとともに、停職処分を理由に動労千葉の十二名を新会社に採用せず、清算事業団に送りこんだのだ。

まで 告示 9日

本部家族会は二月二二日に第一回幹事会を開催し、千葉局に対する抗議行動を



家族会の怒りのシュプレヒコールの前に門を閉ざして逃亡した千葉鉄当局

展開することを決定した。

逃亡した千葉鉄当局

三月三十一日、本部家族会の代表十名は真新しい家族会旗をおしたて、差別・選別攻撃の責任者である千葉鉄局長への会見を申し入れた。

ところが、当局はこれを拒否したばかりかすべての門を堅く閉ざして逃亡した。家族会は、こうした暴挙に怒り、当局を追及し、シュプレヒコールを叩きつけ、怒りの抗議声明を読みあげた。

家族会は直ちに千葉駅頭に立ち、千葉鉄当局の首切りを弾劾するピラマキを買徹し、今後、くり返し抗議行動を展開することを確認して終了した。

さらに、この怒りを奮いたたせ、中江選挙闘争勝利のために全力で取り組むこととします。